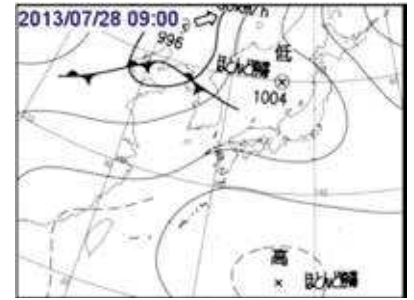
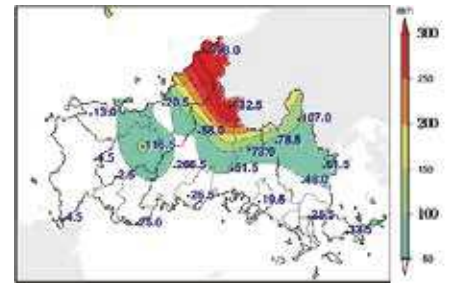




山口市阿東



天気図(7月28日09時)



総降水量分布図



山口市阿東



萩市小川



萩市須佐

気象の概要	<ul style="list-style-type: none"> 山口県付近に発達した雨雲が次々と流れ込み、28日朝から昼過ぎにかけて県北部や中部の一部で猛烈な雨となった。 山口市では28日08時13分に143.0mm、萩市須佐では同日12時04分に138.5mmと、それぞれ観測史上1位となる1時間降水量を観測し、萩市須佐では7月28日12時20分までの3時間に7月の月降水量の平年値(281.6mm)を上回る301.5mmを観測した。 					
	総降水量(mm)	432.5(須佐)	日降水量(mm)	351.0(須佐)	1時間降水量(mm)	143.0(山口)
被災場所	県北部、中部					
被害の規模	(人的被害)死者2人、行方不明者1人、重傷者4人、軽傷者7人 (住家被害)全壊32棟、半壊508棟、床上浸水153棟、床下浸水1,050棟 (その他被害)道路327ヶ所、河川360ヶ所 など <被害額総計>約190億円					
被害の特徴	<ul style="list-style-type: none"> 阿武川、田万川、須佐川が氾濫し、多くの家屋が浸水したほか、道路法面の崩壊、JR山口線の橋りょう流出やJR山陰本線の橋脚沈下などによる交通網の寸断、水道施設の被災による大規模な断水が発生した。 特別警報の運用開始前であったが、気象庁は、山口県と島根県で特別警報に相当する「これまでに経験したことのないような大雨」であると発表して、「ただちに命を守る行動をとってください」と最大級の警戒を呼びかけた。※特別警報の運用開始は平成25年8月30日 					



避難をするときに、避難場所まで行くのが危険な場合には、無理に避難場所まで行かず、屋内の安全な場所に避難してね。

体験談

『思いもしなかった水害』 萩市 女性 生徒



萩市須佐

私は、あの日家でテレビを見ていました。外は、雨が強く、家の中は停電が続いた状態でした。友達と、電話などで「雨がひどいね」などと話していました。外をのぞいてみると、みぞから水があふれていました。私は、こんな短時間で水がこんなにあふれると思いませんでした。すると、防災行政無線がなり、避難勧告が出されました。友達と公民館へ避難しようとした。でも、道路は水があふれていて、友達の家は、玄関まで水がきていて避難できない状態でした。お姉ちゃんやいとこなどから電話がありました。「危ないから避難

しちやいけん。」と言われて、避難するのをやめました。私は、こわくなり、近所の人を呼びました。家で過ごしていると、少しずつ雨がやんできました。外に出てみると、駐車場の前の道路は、水がひいていました。でも、公民館側の方は、大人の腰ぐらいまで水がありました。水がひいた後、小学校やおばあちゃんの家などに行きました。行く途中に、泥などがたくさんあり、横断歩道などはくずれていました。

私は、水は重い物などをこわしたりするのだなと思いました。おばあちゃんの家は、泥だらけで冷蔵庫などもたおれていました。学校も、プランターなどがちらばっていました。私は、家に帰りながら、「ひどすぎる」などいろいろなことを思いました。

次の日になり、もとの須佐に一日でも早くもどってほしいという思いから、友達と一緒に私たちがボランティアをすることにしました。

須佐地域ふるさとづくり協議会『2013. 7.28 山口県北部豪雨災害 次代に伝えたい102 人の証言』より転載

体験談

『家族、集落、地域を守る』 萩市 男性 消防団員

28日、いつものように目覚め、須佐の花火大会を楽しみに神戸から帰省した孫たちの顔を見て久しぶりの団らん。9時過ぎごろから、その団らんも束の間で、窓の外では稲光、激しい雨音。雨と言うよりも「ヒョウ」でも降ってるんじゃないかと疑うほどの大粒の雨。1年生になったばかりの孫が、夏休みの宿題と向かい合っている。窓の外を見ると明方よりも増して暗くなり雷の音が激しく響き、頻りに停電する。その都度懐中電灯やローソクに火をともし、その明りで宿題を…。そうこうしているうちにも、家族の会話は「昼までには雨が止みそうじゃけえ、今晚は花火大会があるじゃろうねえ」と全然危機感がない。



萩市須佐

防災メールで「大雨洪水警報」が入ってくる。それでも「またいつものことじゃあ、そのうち止むじゃろう」。その警報にも全く危機感がなかった。そんな中、10時頃に総合事務所から「副団長！本町の交番付近は道路が冠水していますよ！大変なことになっています！すぐに出動して下さい！」との電話を受け、まず、家族に安全確保の体制を指示し、次に集落の自主防災組織の役員に「災害時要援護者」への声掛け支援をお願いして総合事務所に向かった。その時は中津にある私の店舗のことは眼中になかった。総合事務所につく頃には、今までに増して雨の量が半端じゃないほどの降り方。総合事務所には、市職員が一人二人と集まってきて、鳴りっぱなしの電話に対応が間に合わない。消防団もすぐに出動をかけるも、道路の冠水などで思うように動けない。各地より避難支援の要請があるが消防団員もそこに行く事が出来ない。大変なもどかしさを感じた時間であった。そんな中でも消防団員が各地で救助や支援に立ち向かったと事後報告を受けた。身の危険を感じながらの行動に敬意を表したい。もう少し早く出動できたら…。しかしあれだけの短時

間での雨量では、完璧に対応はできない。今後課題を残した。家族からも、家の周辺道路は膝上まで冠水し、床上まで浸水しそうだと救助の要請があったが、2階で避難するように促した。自主防災を組織していても、あまりの短時間の災害でうまく機能しなかったことを反省。3時半ごろ中津の店舗を思い出し、周りの視察を兼ね腰まで浸かりながら近くまで行き、大変なことになっていることが分かった。

翌日、天井まで浸かった店舗ようやく入る事が出来た。無残な姿に全身から力が抜け一瞬呆然とした。ここから猛暑の中1週間に及ぶ片付けが始まった。時間が経ち振り返ると定休日でもよかった。もし営業中で店に居たらどうなっていたらだろうか。失った物の代償も大きかったが、命があったことが何よりと家族で慰めあった。



萩市須佐

須佐地域ふるさとづくり協議会『2013. 7.28山口県北部豪雨災害 次代に伝えたい102人の証言』より転載

トピックス



避難情報の種類

災害が発生し、住民に被害が及ぶと判断されるときに、市町は住民に対して避難情報を発表するんだよ。

- ▼ 避難準備・高齢者等避難開始 (警戒レベル3)
 - 雨が続くなどして、避難勧告や避難指示を行うことが予想される場合に発表される。避難の際に助けを必要とされる高齢者の方や障害をお持ちの方などは避難を開始する。それ以外の方も避難に備えて準備を行う。
- ▼ 避難勧告 (警戒レベル4)
 - 安全のため居住者に避難を勧め、促すもの。「避難してください」という呼びかけ
- ▼ 強 避難指示 (警戒レベル4)
 - 被害の危険がせまったときに出されるもので、勧告より拘束力が強く、住民を避難のために立ち退かせるためのもの。「直ちに避難してください」という緊急性の高い呼びかけ

トピックス



台風や前線、低気圧が近づくと大雨が降るおそれがあるんだ。気象台が発表する最新の気象情報を、確認して早めの避難を心がけよう。

- 注意報・警報・特別警報
 - 大雨などにより災害が起こるおそれがあるときに、気象台が市町単位で発表する。
 - 注意報 災害が起こるおそれがあるとき。
 - 警報 重大な災害が起こるおそれがあるとき。
 - 特別警報 警報の発表基準をはるかに超える豪雨が予想され、重大な災害の起こるおそれが著しく大きいとき。
- 土砂災害警戒情報
 - 雨が長く降り続いたときなど、土砂災害の危険度が高まった場合に、気象台と県が共同で発表する。
- 記録的短時間大雨情報
 - 現在の降雨がその地域にとって災害の発生につながるような、まれにしか観測しない降水量であることを知らせるために、気象台が発表する。山口県では1時間100ミリ以上の降水量が観測された場合に発表される。